

道薬誌 報告

選手と薬剤師で考える ドーピング防止ワークショップ2013 in Hokkaido

日時：平成25年11月4日(月/振休)

9:00~12:00

会場：北海道薬事会館 3階 研修室

主催：一般社団法人 北海道薬剤師会

共催：公益財団法人 北海道体育協会

後援：公益財団法人 日本アンチ・ドーピング
機構(JADA)
北海道病院薬剤師会

参加者：薬剤師 16名

ファシリテーター 8名

選手・指導者 18名

世界的にドーピング防止活動が活発になる中で、ドーピング防止啓発を目的として薬剤師・スポーツファーマシストが、選手やコーチ、関係者と一緒にドーピング防止を考え、情報を共有し、正しい知識、最新の情報を認識していくことを目的に2012年に引き続き2回目の本ワークショップ開催となりました。

参加選手：高校女子グランドホッケー部部員
(ジュニアチーム)

コーチ・関係者：北海道体育協会、日本スケート連盟、北海道野球協議会、2017年冬季アジア札幌大会組織委員会、女子スキージャンプソチ冬季五輪日本代表関係者、など。

薬剤師：スポーツファーマシスト、病院・保険薬局・OTC薬販売店勤務薬剤師

* 本年日本薬剤師会学術大会開催の山形県薬剤師会から2名参加されました。

ドーピング防止ワークショップ内容

(9:00~12:00 3時間)

①アスリート Key Note Lecture

②ワークショップ：薬を受ける時、買う時の問題点を考える

(ドーピング防止小冊子の使い方
お薬手帳の使い方)

ドーピング防止特別委員会委員

豊谷高明

① アスリート Key Note Lecture

前回の2012年でもご講演いただきました池田めぐみさん(フェンシングで2010年広州アジア大会金メダル、アテネ・北京五輪出場、JADAアスリート委員)から、アスリートが薬と関わる際の問題点や日頃からのアンチ・ドーピングの考え方について、次のようなお話をさせていただきました。

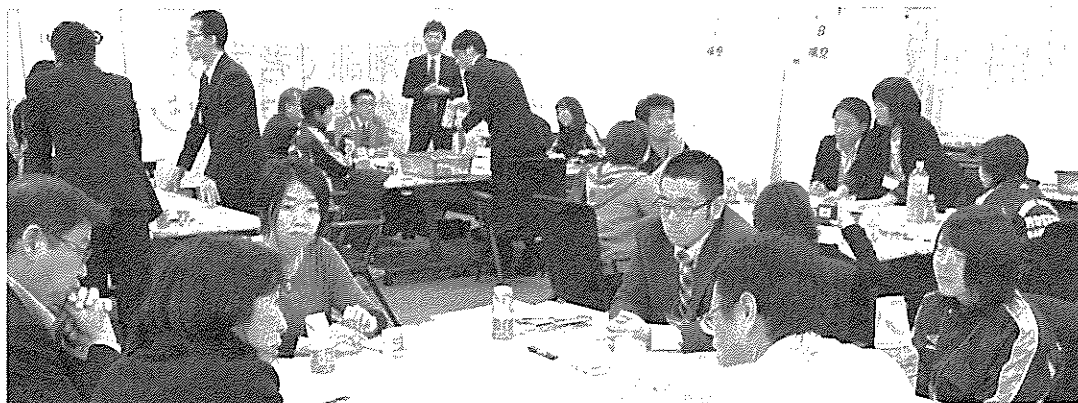
陸上ハンマー投げメダリストの室伏広治選手は、日頃飲んでいるペットボトル飲料は一度目を離したものは一切口にしないとのこと。知らないうちに、なにか薬物などを入れられているかもしれないため、毎日の生活で身を守る管理が必要なのです。とメダリストならではの大変さをご紹介いただきました。

その後、池田めぐみさんからサプリメントを例に各グループで考えてみようという例題をいただきあらかじめ分けられた8つのグループで自己紹介をはじめとしたディスカッションが始まりました。

サプリメントは、プロテイン、ビタミンなど体力増強のみならず、美容、ダイエット、ドリンクにいたるまで多様なものが氾濫しており、さらにインターネット販売などで手軽に購入ができるようになっていきます。服用に際しては自己責任とはいえ、わからないことはそのままにしておかない、不安は残さない、大切なことは正確な情報を知ること、を惜しまないことが大切なのです。

② ワorkshop

選手・関係者・薬剤師が6~8名の8グループに分かれ、あらかじめ指定された「喘息」「感冒薬」「鎮痛薬」の3テーマについて、ファシリテーターによる進行のもと、各グループがドーピング防止について話し合うという対話型ワークショップ形式で行われました。



各グループではドーピング防止小冊子、お薬手帳の使い方などの説明をしながら薬を受ける時、購入時の問題点をKJ法で抽出し、与えられたテーマについて思い思いの意見を交換しました。

選手・指導者からは

- ・とても勉強になりました
- ・野球(アマチュア)でのドーピング防止推進活動をしています
- ・とり入れるべき事柄がたくさんありました
- ・ドーピングコントロールの講習会などを北海道で行って頂きたいと思いました
- ・いろいろ薬のことやドーピング予防のことなどが理解できました

などの感想をいただきドーピング防止について理解する良い機会となったようです。

薬剤師からは

- ・薬剤師として伝えなければならないことを正しく伝える、ということを理解する場としてとても勉強になりました
- ・アスリートの方の意思表示の難しさを知りました
- ・表示できる方法を考える必要があると感じました

- ・もっとスポーツファーマシストの意識強化が必要と感じた
 - ・薬に関しては責任もって協力できる体制を作りたい
 - ・継続してWSを開催してもらいたい
- など、感想から今回のワークショップから何らかの知識を学び得たようです。

スポーツファーマシストの知名度はまだまだ低いのが現状です。2014年2月のソチ冬季オリンピック、パラリンピック、2017年の冬季アジア大会が札幌、帯広(スピードスケート)で開催されます。そしてさらに2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定に続き、札幌で冬季五輪招致への動きもあるなか、今後否応なく盛り上がるであろうスポーツの祭典までの期間はスポーツファーマシストを知っていただけるチャンスでもあります。薬を提供する側の薬剤師は、選手・アスリート・関係者への正しい情報の提供者として、身近な存在ではないかと考えます。相談を待っている受け身の意識から今回のようなワークショップを通して薬剤師側が自発的に働きかけていく活動を継続していくことは大変有意義なことだと思います。

